

第2回専門部会意見対応表

資料3-2

No.	委員	意見	対応
専門部会【スマート】			
1	定池委員	スマートシティの推進については、3年半前のブラックアウトのことや、雪による停電ということを考えると、電源やバックアップというセキュリティなど、安全の部分が保たれているということが前提になるのかなと思います。自明の理ではあると思いますが、そういう安全性を確保した上でということを書き込んでいただいたほうが市民の方々もそこをきちんと担保してくれているのだということが分かって、より理解が進むのかなと思いました。	セキュリティ確保の観点については、【併せて取り組むべきこと】において、「○サイバーセキュリティの強化」に位置づけております。また、電源やバックアップ等の安全性の観点については、「施策の方向性」に「データを利用できる <u>ように安全な形で</u> 」を追記します。
2	福土委員	デジタル化というのは、避けて通れない課題の一つなのだろうと思います。高齢者は極めて食いつきづらい。いかにしてそれに食いつかせるかということをいろいろと模索しながらやっているのですが、例えば、スマートフォンの使い方にしても、単に講師が来て説明するだけではもう追いつかないので、日常で使えるような環境づくりをしながら、例えば、簡単な部分で言えば、友達づくりをするならLINEの交換をするとか、そういったことへどんどんと拡充することによって、デジタルというものに対する最終的な目標が見えてくるのかなと思っています。	【併せて取り組むべきこと】において、「○デジタルデバインド対策」を位置づけております。また、デジタル社会の形成の目的として、「(あらゆる世代における)市民生活の質の向上」を追記します。
3	梶井部会長	デジタル社会になると、例えば、デジタルデータによって除雪が知らないうちにすごくよくなるのだとか、ブラックアウトや大雪になったときに、高齢者の方もスマートフォンでその情報を見れば、生活がすごく便利になるのだというイメージがもう少し市民に分かりやすく浸透させられるようなことをここに書き添えていただければ、このスマート領域がもっと市民全般に受け入れられるのではないかなと感じたところ	デジタル社会の概念において、先進的なサービスが創出され、いつでも個人に最適化された利便性の高いサービスが受けられる社会のイメージとして、【サービス創出のイメージ】を記載し、医療・福祉・子育てや、防災・防犯、モビリティ、インフラなどの分野に関するデータや情報を組み合わせることによって生まれる新しいサービスが市民・観光客などの利便性・快適性を高めていることとしています。
4	山本(一)委員	メタバースや仮想空間という概念はないのだけれども、まちづくりを考えるときには、これから普及していくであろうものも少し視野に入れた上で施策を展開すれば可能性が広がるのではないか。	戦略編の都市空間分野の施策として、「イノベーションの創出や都心の付加価値向上に向けて、人流や土地利用等のデータの利活用の促進や、官民の協働による先進的なサービスの創出などにより、効果的かつ機動的にまちづくりを進めます。」を位置づけます。

No.	委員	意見	対応
5	山本（強）委員	<p>デジタル社会の形成は、つまり市民生活の質の向上です。そのために我々はデジタル技術を活用するのですと、ある種の思い切りをメッセージとして出したらどうか、と思う。</p> <p>また、デジタル化が一番貢献するのは、実は循環。今まで、例えば、ネゴシエーションの手続など、非常に煩雑で何をやっても時間がかかっていたものが非常に短時間でできるとか、ワンクリックで物の発注ができるとか、在庫を持たなくても直ちに1週間以内に物がそろうとか、循環が速くなって経済行動における摩擦が減るとというのがデジタルの一番の効果。そのためにICT活用プラットフォームやデータ連携基盤をつくっている。</p> <p>札幌のスマート化とは何かということについて、大きく言えば、市民生活の質の向上がアウトプットなのだということや経済の循環を活性化するのが札幌のスマート化なのだというメッセージを織り込めたらいいと思う。そして、そのために人材育成の仕組みが必要であるだろうし、データ連携基盤が必要なのだという枠組みを分かりやすく描けたらいいと思う。</p>	<p>デジタル社会の形成の目的が「市民生活の質の向上」であることが分かるよう、記載内容を修正します。また、概念イメージ図についても修正します。</p>
6	柴田委員	<p>デジタルの特色は、一番左上にあるタイトルの分野横断的に取り組む施策のように、分野を超える機能を持つということがあるのと、もう一つは、地域を超えるということ。何かその特性を生かして、ほかのまちと組んでやるとか、そういうプロジェクトの一環にデジタルトランスフォーメーションを使えたらすごくおもしろいと思いました。</p>	<p>概念イメージ図において、「分野や地域を超えた連携」を追記します。</p>

No.	委員	意見	対応
7	村木委員	<p>スマートシティのスマートというのは手段なのですが、何かちょっと違う感じの資料になっている気がして仕方ありません。スマートを使って分野横断的に活用していこうと考える際には、各部門がスマート化のメリットを理解しないと絶対に分野横断にならないと私は思うのです。</p> <p>国では、今、スマート化のときには必ずロジックモデルをつくれと言われると思います。それは、最終的な目標に対して何を行って、それがどういうふうにデータと関係するのかというモデルをちゃんとつくっていくということです。ここには、例えば、教育や人材育成など、個別具体的なものだけが書かれています。それらが全体の中でどういう位置づけにあるのかをもう少し考えないと、何となく煙突型に分野だけでそれぞれスマートを進めているかのように見えてしまいますよ。</p> <p>札幌の人々の暮らしをよくするためにスマート技術がどういうふうに関わるのか、それに対して分野横断がどういうふうに関わるのかというのをもう少し書いた資料にしないと、それぞれがただデータを使えばいいということになっていってしまうのではないかなと思って、少し心配します。</p>	<p>官民のデータ連携により、先進的なサービスが創出され、いつでも個人に最適化された利便性の高いサービスが受けられる社会がイメージできるよう、概念イメージ図を修正するとともに、サービス創出のイメージを追記します。</p>

No.	委員	意見	対応
8	山中委員	<p>専門学校生など、大学を卒業していない人もたくさんおり、例えば、札幌において20歳で区切ったとき、半分ぐらいは大学生ではないはず。そういう人たちにデジタルデバイドの問題が発生する可能性。</p> <p>ここに書いてあるIT人材をつくるという尖ったところはいいのですが、札幌としてどういう人材が欲しいかという、ITリテラシーが高いというか、DXを使いこなせるような人材なのです。このように、ITを使いこなすというのは、ITと何かを掛け算するという格好になるわけですが、その何かの人たちがITやDXをちゃんと分かっている必要があって、結局、それが中小企業のDX支援にもつながりますし、札幌市がDXなどに対してのリテラシーを高めていくことを考えると、そういう施策がここでは抜けているような気がします。高校だと、旭丘は非常によくやっていると思いますが、総合的な探究などでちゃんとDXを使いこなせるような教育が必要だと思います。いわゆるITリテラシーを高めた人ですね。一見するとDXとは関係なさそうな人こそが使いこなせることが必要なのですが、そういう施策が入っているようには見えづらいということです。</p>	<p>「情報活用能力の向上に向けた小・中学校におけるICT機器等の効果的な活用の推進」を追記します。また、戦略編の子ども・若者分野の施策において、「子どもの資質・能力の向上と効率的な学校運営に向けて、ICT機器やデジタル教材を整備し、児童生徒のICT活用能力を高めるとともに、校務におけるICT活用を進めます。」を位置づけます。</p>
9	椎野委員	<p>本学の学長はAIが専門で、実際には研究としてフィールドに入っているのですね。具体的には、厚別区のもみじ台団地という高齢化率49%のところに入って、AIを活用したMa a Sなど、サービスとしての移動をいかに効率的に実現するかとか、看護学部の先生も共同研究として入って、看護の視点から特に高齢者の生活支援サービスをこれからどういうふうに包括的に充実させていくかというかなりプラクティカルな研究活動を推進しております。</p> <p>この資料では、言葉だけを見ると、何をしようとしているのかが読み取れないので、こういう視点で研究をやった結果、今、地域が抱えている課題にはこういうものがあって、高齢者の生活を包括的に支援しようとしていますよという研究の目指しているところやそれをどう活用するのかをもう少し具体的に書いていただくと、そういうことなのだねというところが分かるのかなと思いますので、その辺は少し加筆いただいてもよいかなと思いました。</p>	<p>例示として、「郊外住宅地における高齢者の「健康」増進及び社会的つながり創出など」を追記します。また、デジタル社会の概念において、【サービス創出のイメージ】を記載し、医療・福祉・子育てや、防災・防犯、モビリティ、インフラなどの分野に関するデータや情報を組み合わせることによって生まれる新しいサービスが市民・観光客などの利便性・快適性を高めていることとしています。</p>

No.	委員	意見	対応
10	椎野委員	主な施策の①は教育分野となっていますが、中身としては研究も入っていますよね。教育と研究というのは質の違うものですから、もし変更できるのであれば、教育研究分野という書き方のほうが適切かなと思う。	「教育・研究分野」に修正します。
11	岡本委員	スマートはすごく大切だなと思いますが、その後いろいろな余裕や余白が生まれてくると思っている。例えば、先ほどあったように、役所の窓口にはわざわざ行かなくても行政サービスが受けられるというところに注目すると、実際に空間として窓口を減らせたり、もっと便利なところに入手できるものがあれば、別に役所が広い空間を用意する必要はなくなったりするのです。それが皆さんの暮らしの一場面をもっと豊かにしていくような空間の使い方につながっていく面もあると思っているので、スマートが大事ではなくて、スマートのその先に出てくる余白も含めて本当は考えないといけないのではないかなと思って聞いていました。	区役所等における行政サービスの提供のあり方や空間の利活用については、戦略編の生活・暮らし分野、都市空間分野、行財政運営の施策に反映していきたい。
12	吉岡委員	人材育成・産業競争力の強化のところに、札幌には若者の流出という大きな課題があるとして、何か内側でぐるぐると回っているようなイメージの北海道の地図を二つ示していただいています。確かに、若者の流出はあるのですが、今は、その場に行かなくてもオンラインでいろいろな情報を知ったり、やり取りが全てできたりする現状ですし、世界に目を向けて考える視点が今や当たり前になってきているのではないかなと思っているので、もう少し世界ともつながるのだというイメージで打ち出せたらよりよいのではないかなという意見です。 若者の流通は確かに課題ですが、変わりつつあるのではないかなという思いもありますので、そのようにしていただけたらと思います。	世界とのつながりや、札幌から世界へ進出していくということがイメージできるよう、イメージ図を修正します。
13	梶井部会長	デジタルと言っている割には世界とのつながりが見えないというところがありますので、もう少し北海道がデジタルで世界にというイメージがあったほうがいい気がしますね。	

No.	委員	意見	対応
14	定池委員	<p>道外流出の抑制という言い方だと、守るといふか、防ぐという観点になるので、今、道外に住んでいる元市民を呼び込むという視点も欲しいと思っています。</p> <p>世界にという視点も欲しいのですが、競争力が高まることによって、そういう仕事が札幌にあるぞということで、人を呼び込むという魅力にもつなげてほしいですし、そういう意気込みも書き込んでいただければと思います。</p>	<p>国内外から人や企業を呼び込むという観点については、イメージ図を修正するとともに、また、道外に住んでいる元市民を呼び込むという視点については、戦略編の経済分野の施策として「企業の人材確保に向けて、人材採用や育成、定着率の向上に関する支援をします。また、道外・国外から札幌経済を担う人材を呼び込むため、UIJターンの促進や高度人材の誘致を支援します。」を位置づけます。</p>
15	中田委員	<p>人材育成・産業競争力の強化の中で、今、市立大学においてAI関連の研究や技術開発を推進しているというのは非常に素晴らしいなと思っている。</p> <p>今、北海道総合開発計画の中で、食と観光で世界に名立たる北海道を目指すという大きな計画があるが、国際観光学部みたいなものを設置してはいかかかと思う。今は、AIや高度化されたIT技術を絡めた取り組みを進める等、観光業界も随分変わってきておりますので、こういった変化に対応できる人材を育成したり、道内ばかりでなく、海外からも人材を受け入れるような教育の場も提供したりしていただければいいなと思います。</p>	<p>札幌市立大学は、現在、デザインと看護の2学部・2研究科を有し、両分野が連携した特色のある教育・研究を行っているところです。特に、デザイン学部では、多様な視点からニーズをとらえ、製品やサービスを創造することのできる人材を育成しており、大学での教育を通じて、問題解決能力や企画力、提案力、コミュニケーション能力などを学生が身につけられるものと考えています。また、異文化への理解と関心を高めるという大学のグローバル人材育成方針のもと、対象科目の拡充も行っているところです。このため、デザイン学部の卒業生は、営業、企画、広報など、企画力やコミュニケーション能力などが求められる分野でも大いに力を発揮しているところであり、これまでも旅行代理店やホテルなどの観光産業分野に卒業生が就職しています。また、北海道大学大学院にも、国際広報メディア・観光学院（観光創造研究コース）が設置されています。加えて、札幌市としても、観光人材のスキルアップと新たな観光資源の創出を目的とした育成プログラムの実施などを検討しております。</p>
16	原田委員	<p>沖縄科学技術大学院大学のケースなどを参考に、観光に特化した大学を札幌につくることで世界中から優秀な人材を集めることができるのではないか</p>	

No.	委員	意見	対応
17	佐藤（大）委員	<p>札幌市では大学進学、就職というタイミングにおいて、優秀な人ほど外に出ていくという構造がある。産業が魅力的でないと、やっぱり就職先も魅力的でないし、企業としても、大規模ではないところは学生へのアピールも十分にできないという悪循環が始まっている。それを解決することを考える上で、大学や企業だけでやるにはほぼ限界があるので、「地域」というのがすごく重要なキーワードになると思う。</p> <p>例えば、札幌市が、市立大学や国公立大学、そして企業ももちろん巻き込んだ上で、本当に優秀な人が残りたいと思うような教育プログラムを地域で持つことと同時に、大学にも必要なことを要求していくことも含めて、札幌市みたいな存在がイニシアチブを取っていくというのはとても魅力的だなと思う。地域で優秀な人をつくる、企業や地域が優秀な人を巻き込んで学ぶ場を提供することによって、地域や企業の魅力を知った人たちがその地域での就職を考えるようになる、それによって優秀な人たちが残っていくという循環をつくるということ。単体の大学ではなく、複数の大学の関わり合いの中で、大学の競争に巻き込まれない形でつくっていくことがとても大切なのかなと思いますし、そういった意味での地域のコンソーシアム的な発想がとても有効なのではないかと思う。</p>	<p>「人口減少緩和策」の施策として、「大学との連携による若者の地元定着や大学・企業・地域コミュニティの活性化」を位置づけます。</p>
18	川島委員	<p>スポーツ分野においても、データ・エビデンスがなかなか蓄積されていないのが現状。官民のデータ連携によって、市民に還元できれば良いと思う。</p>	<p>戦略編のスポーツ・文化分野の施策として、「スポーツで得られた医科学的知見を市民に還元する仕組みづくりに向けて、関係機関との連携体制を構築するほか、ICTの活用などによる、スポーツ医学や栄養学、予防医療等の知見を生かした取組を行います。」を位置づけます。</p>

No.	委員	意見	対応
19	中田委員	商工会議所で会員企業に対して生産性向上についてのアンケートを取ったところ、その結果として、IT化に対して非常に興味もあるし、取り組みたいけれども、人材がいない、何から手をつけていいかわからない、資金面に不安があるということが大きな項目として挙がってきている。それらの支援は行政だけではなかなか厳しいところがありますので、例えば、大学が相談窓口になったり、札幌商工会議所でも中小企業相談所というのが市内5か所にあって、専門の相談員を置いている相談窓口も1か所ありますので、それを拡充することによっていつでも相談できるような体制を民間レベルでつくっていったりということも記載していただくと広がりが出てくるのかなと思います。	戦略編の経済分野の施策として、「様々な分野の生産性向上に向けて、中小企業におけるデータや先端技術の活用促進に関する支援をします。」を位置づけます。
20	岡本委員	もう一つは、先ほど山中委員からあった切り口の中で何かとスマートを掛け算するという話があったと思いますが、札幌では、エンタメのところではアートイベントをやったりしていますし、初音ミクもいますよね。デジタルとアートは親和性が高く、取り込みやすいというか、入っていきやすいところもあると思うのです。こちらには結構がちがちな話を書いていますけれども、もう少し柔らかいコンテンツ的なことも載せると望ましいのではないかなと思います。	『1 企業・人の創出、獲得』において、「クリエイティブ人材」を追記します。
21	山中委員	市民の意識や行動変容が施策にないように見えます。最近、気候変動教育という新しい言葉がつくられつつありまして、本当に2050年に温室効果ガス排出量を実質ゼロにするためには人々の意識がきちんと変わらないとできません。札幌市では、ワークショップをやったり、気候市民会議を開いたり、かなり先端的なことをいろいろとやっていると思いますので、ぜひともそれを市民の意識を変えていくぐらいの気持ちでもっとやっていただきたいなと思っています。ただ、こういう施策をつくる時には、もちろんトップダウンでやるのはよろしくないの、市民の声をちゃんと入れていく必要があります。	主な施策として「⑤行動変容」を追記し、施策の方向性を記載するとともに、戦略編の環境分野の施策に反映していきたい。

No.	委員	意見	対応
22	牧野委員	やはり意識が変わらないと環境は変わっていかないと思うのですよね。そのためにも、ゼロカーボンのことを知ってもらうこと、あるいは、SDGsのこともそうですが、ハードル高く考えるのではなく、自分の身の周りの身近なことから気づいてもらうといいですか、物を大切にすることにもつながっていくと思いますので、これはぜひ子どもの教育の中に入れていただきたいなと思います。	
23	村木委員	再エネと移動のところに水素と出てくるのですけれども、水素は2050年までの間にどういうふうに札幌市の中で整備を進めていくのでしょうか。最後のところで費用対効果の話が出ましたが、雪冷熱エネルギーの導入には費用がすごくかかりますし、実は水素も物すごい費用がかかって、選手村でも20年計画がありますけれども、事業者は10年でもう辞めたいぐらいの赤字になってしまうのですよね。いろいろなところで水素と書かれていますのですが、全然うまくいかないことを書いてしまってもしょうがないなと思うので、どういうタイムスパンでやるのか、コストのことをどう考えるのか、水素は何でつくってどこから持ってくるのかを考えないといけないと思います。本当に水素がつかれるような場所であれば、需要と供給のことも考えられますが、札幌の場合は何でつくのかなというのがまず一個あるかなという感じがします。	国においても、水素は国内で製造できる再生可能エネルギーという観点から、エネルギー政策上重要であると位置づけるほか、水素は長期保管が可能であるため、例えば、太陽光発電がほとんど動かないものの、電力需要が大きい冬場において、水素で発電するなど、他の再生可能エネルギーにはない可能性があることから、積雪寒冷地という点を踏まえながら、引き続き、水素の利活用については検討していきたい。 また、道内市町村等と連携し、道内市町村において創出された再生可能エネルギーの余剰電力を活用して製造されたカーボンフリー水素を札幌市内で消費・活用することについても検討していきたい。

No.	委員	意見	対応
24	村木委員	<p>また、私は、都心エネルギーマスタープラン等をやらせていただいているので、結構いろいろなことを考えてきていることは分かっているのですが、郊外の戸建て住宅の暖房の灯油利用をどういふふうに変えていくのかです。ストックへの対応を考えると、戸建て住宅地の排出量のことも脱炭素という観点では結構大事な論点かなという感じがします。</p> <p>それから、再エネのところでは、再エネをつくり、それを活用すると書かれています。今のところ、再エネをたくさんつくってもグリッドに戻すには限界があって、インフラの増強はそんなに簡単ではないのですよね。そうすると、どうやって蓄電をしていくのか、つくった電力をどうやってためていくのか、それから、需要側が電力をそこまで使わなくてもいいような建物にしていくことも併せて書いていかないと脱炭素は結構厳しいだろうなと思っています。</p>	<p>省エネや再エネ等をゼロカーボンの施策の柱として位置づけております。また、戸建て住宅における脱炭素という観点については、環境分野の施策として、「環境性能の高い建築物の普及拡大に向けて、ZEB・ZEHなどに対する支援や光熱費等の見える化などを促進します。」や、「家庭や事業所等における省エネルギー機器の普及拡大に向けて、省エネルギー機器への転換促進や導入支援などを行います」を位置づけます。</p>
25	山中委員	<p>「道内各地域との連携の下に」と入っているのですが、施策ではどういう連携を取るかがあまり見えていません。私は、ゼロカーボン北海道推進協議会の座長をやっていますが、例えば、見える化とか、一人一人がどれだけCO₂を出すかについて、道でアプリをつくったりしているわけです。そういうものはダブルでつくる必要はないので、道あるいは周辺市町村とのCO₂をどう減らすかについて協議していくみたいなこともここに書き込んだほうがいいと思います。</p>	<p>道内各地域で発電された再エネ電力の市内利用などを想定しております。また、戦略編の環境分野の施策に反映していきたい。</p>
26	山中委員	<p>再エネや水素なんかは札幌には生産地がほとんどないので、周辺分野との協力でやっていかなければならないということですね。あと、確かに、ビルの高断熱、高エネ、ゼロエミッションビルディングやハウスがありますよね。札幌市はこれを随分やっていると思いますので、もっと積極的に進めるのだというところは打ち出してもいいのかと思う。</p>	<p>道内自治体と連携して取り組んでまいるとともに、環境分野の施策として、「環境性能の高い建築物の普及拡大に向けて、ZEB・ZEHなどに対する支援や光熱費等の見える化などを促進します。」や、「家庭や事業所等における省エネルギー機器の普及拡大に向けて、省エネルギー機器への転換促進や導入支援などを行います」を位置づけます。</p>
27	山本（一）委員	<p>北海道は森林の宝庫であり、これを活用することによってゼロカーボンの実現が推進されるのではないかと思います。</p>	<p>④資源において、「ゼロカーボンの実現に必要な吸収源を十分に確保するため、森林整備の拡充や道産木材の利用促進に取り組む必要」と位置づけております。</p>

No.	委員	意見	対応
28	牧野委員	エネルギーの導入では、費用対効果に大きな課題があるということですが、これは本当に難しいなと思っています。排雪で集められた雪の山を見ていると思うのですが、あれをうまく活用できたらいいですね。あれは宝物で、解けるのを待つだけでは、と思います。ただ、あれを運ぶことで二酸化炭素が排出されたり、別の問題もあったりすると思いますが、諦めず、いつかエネルギーに換えていけるように進めていただければと思います。	雪氷熱・雪冷熱エネルギーの活用については、引き続き、最新技術の動向を注視しながら、今後の可能性について検討していきます。
29	定池委員	雪氷熱と雪冷熱エネルギーの導入は、やはり、まだ費用面で厳しいと思うのですが、こういうことにも配慮して取り組んでいますよということが札幌のブランドを高めることにもつながると思うので、長期的な戦略につなげていただければと思っています。	
30	原田委員	ゼロカーボンとスポーツの関係というのは非常に重要になると思いますので、ぜひ観光の中にゼロカーボンの思想を入れて行ってほしい。	サステナブルツーリズム等の視点について、戦略編の経済分野の施策に反映していきたい。
31	吉岡委員	ある親子が東京からこちらに引っ越してきたことがあるのですね。南区のある幼稚園は、どうぞ、親子で来てくださいという方針で、山に面している幼稚園にお子さんとお父さんが行くのですね。そして、子どもは雪遊びをしていて、お父さんは裏山でスノーボードを楽しむのです。子どもも自分も楽しめていますし、非常に積極的に雪を捉えてくれているのです。ですから、札幌市民は、子育ての上でも、雪を厄介なものではなく、楽しみとして活用しているのですよという視点で見せていくのも一つの作戦かなと思っています。	ゆきの利活用②-2ウインタースポーツの振興において、「〇ウインタースポーツっを楽しめる機会・環境づくり」では、スキー学習の支援や歩くスキーの体験の実施などを考えております。戦略編のスポーツ・文化分野の施策に反映していきたい。
32	原田委員	例えば、海外からお客さんが来たときに、空港で全員の顔認証登録をしまつて、市内、あるいは、スキー場では、その顔認証で全ての支払いが済んでしまうとか、そういった国際的なスノーリゾートシティづくりの上でのスマートシティ構想が必要だと考える。	魅力的かつ国際的なスノーリゾートとなるよう、戦略編のスポーツ・文化分野の施策に反映していきたい。

No.	委員	意見	対応
33	定池委員	<p>除雪のところについて、オペレーターを自前で確保するというのはやはり厳しいと思います。</p> <p>国のモデル事業の話にはなりますけれども、とある地域のとある地区で、自前でオペレーターを用意できます、私たちのエリアは自分たちで除雪をしますというところにお金を出して、除雪機械を提供し、例えば、地域の中で何時までに家の前に雪を出しておく、こうやってこうしてくれるからというルールを決めて、自分たちでその地域の除雪をコントロールしてもらうのですね。そうすると、よくあるような除雪車が家の前に雪の山を置いていってしまったということも、地域の中で了解を得ているので、苦情も出ないということなのです。</p> <p>札幌市でも既にされているかもしれませんが、これだけの人口でこれだけの雪が降る地域なので、モデルを設定してそういうことをやってみて、地域の共助力でカバーできる場所はそこにお委ねして、それが難しいところは札幌市が力を入れるという新しい除雪の戦略を打ち出すということもご検討していただければと思います。</p>	<p>小型除雪機の貸出や小型除雪機の購入費用の一部補助など、除雪ボランティア活動に対する支援は実施しております。また、持続可能な雪対策に向けた検討を追記します。</p>
34	吉岡委員	<p>この前の冬の大雪を経験して、一市民として、これだけたくさんの雪が降るのに、行政の方に雪がないような移動ができるようにしてくださいというのはちょっと無理があるなとすごく実感したのですね。ですから、大雪のときは、市民一人一人が札幌スタイルみたいな感じで家にいる、休む、そして、病院の勤務の方など、出勤しなければならない方を優先するようなまちづくりになったらいいなと思っています</p>	<p>大雪時における対応として、積雪深、気象や、除排雪作業の進捗状況に応じた対応を追記します。</p> <p>広報・啓発については、大雪時における対応として、「市民・企業との協働の取組」を追記します。なお、広報・啓発に関して、通常時においては、今後の大雪時対応の概要を広く周知するとともに、大雪対策時においては、渋滞緩和のため、道路幅が確保できるまでは車による不要不急の外出を可能な限り控えるなどを呼びかけを行います。</p> <p>また、持続可能な雪対策に向けた検討を追記します。</p>
35	定池委員	<p>例えば、沖縄だと、台風が来ると分かっていたら、レンタルビデオ店に行ってDVDをいっぱい借りて、食料もいっぱい買い込んでお籠もりする、出かけないということがありまして、だから災害に遭わない、そのために家を丈夫にしておくみたいな話をよく聞くのですね。そういうやり過ぎず知恵を冬の札幌スタイルとして普及啓発していく、広めていく、促進していくことも一つあるのかなと思っています。</p>	<p>また、持続可能な雪対策に向けた検討を追記します。</p>

No.	委員	意見	対応
36	梶井部会長	<p>新たな生活価値観の提案ということで、まさに雪の日というのは、DVDを見ながら籠もる、ステイホームみたいな感じでしたよね。今、皆様のご意見を伺っていると、そういう発想の転換をかなり打ち出してもいいのではないのでしょうか。それでないと、今までと同じような施策になってしまいますので、一歩踏み込んで、新しい生活価値観の創造と雪を絡める、もしくは、コーディネートしてやってくれる町内会には、例えば、支援金を出して、市民の意識を高めていくなど、いろいろな工夫があるかと思います。</p> <p>雪を媒介にして地域の人がつながるのであれば、それはそれで一石二鳥かなと思いますし、そういう発想の転換をしていくような書きぶりもあるかもしれません。</p>	

No.	委員	意見	対応
37	佐藤（理）委員	<p>除雪について、公的なものだけではなく、民間事業者もというのは私もすごく大賛成です。</p> <p>うちの隣の町内会では、町内会でやっているわけではありませんが、個人で業者をお願いして、除雪をやっているのです。旗が立っていて、その一人の人がその業者に頼んでいるようなのです。個人契約だと、家の前の雪だけを持っていくと思うのですけれども、家の前とその辺の一角を何となくきれいにしていってくれるので、そこは道路がきれいで、あそこはすごいなと思って見ていたのです。ですから、個人で契約でもいいのですけれども、業者にある程度補助が出て、少し免除されるというのはありがたい制度になっていくのかなと思います。</p> <p>また、公的なものと民間の事業者では補えない細かいところもありますが、そこは、やっぱり住民同士の助け合いやボランティアの活躍が必要になると思います。今、ボランティアで除雪をしている企業もありますし、そういったものがどんどん広がっていけばいいですね。この雪の対策には、住民同士の支え合いやボランティアによる助け合い、民間企業のボランティア意識というものが載っていないので、それも少し載せていただくとよくなるかなと思います。</p>	大雪時における対応として、積雪深、気象や、除排雪作業の進捗状況に応じた対応を追記します。また、持続可能な雪対策に向けた検討を追記します。
38	福士委員	<p>これだけ市民が雪の対策を求めているのであれば、何らかの負担を含めた方法も検討する必要があるのかなと思います。</p> <p>また、除雪事業者については、もう養成していないものですから、人がどんどん減っておりますし、今年の大雪等を考えると、これからは恐らく機械化に頼らざるを得ないのだらうと思います。例えば、開発局では、既に遠隔操作で公道を除雪できるような試験をやっていますので、そういうものと相まって、我々市民も協力し、雪の問題をどう解決できるかをみんなで考え、方法を幾つか提案して検討していったほうが未永く快適な冬を過ごせるのではないかなという気がします。</p>	

No.	委員	意見	対応
39	梶井部会長	特に雪に関しては、行政にある意味で頼り過ぎて、市民意識が脆弱になっているところもあろうかと思しますので、今の福士委員のご意見にあったように、当事者意識を一人一人が持って、雪とどういうふう共存していくかという意識を喚起するようなことがあってもいいのかなと感じたところ。	大雪時における対応として、積雪深、気象や、除排雪作業の進捗状況に応じた対応を追記します。また、持続可能な雪対策に向けた検討を追記します。
40	岡本委員	立地適正化計画等では今後の人口の薄まり方も考慮して計画を立てていると思うのですが、今後、人口が減っていき、人口密度が薄くなっていくと、一方で、除雪の効率化が余計に難しくなっていくという事実がきっと出てくると思うので、そこでどういうふうにできるのかはすごく考えないと実際には難しそうだなと思っています。予算に対する従業者数が書かれているので、人が減って除雪が大変になり、それぞれの事業者が苦労されている中、単価を上げて頑張らせていただいているというふうに読むのが正しいのかもしれないのですが、もう一方で、積雪深と予算ではなく、決算で見るとどうなるのだろうなどというのは少し気になっています。どのくらい降ったときに幾らかかったのか、どのくらいの方々に活躍していただいて実際の除雪がかなったのかというものが見られると、また別の読み取り方ができるのかなと思っています。また、除雪で動かす重機は二酸化炭素をすごく出しているのではないかなと思うのです。先ほどのデータ系のスマートのほうでも、通信や電力というところで言うと結構なカーボンに置き換えなければ計算できないみたいな話も聞いたことがあるので、トータルでバランスよく見ていくことが必要なのではないかなと思う。	
41	牧野委員	除雪の問題は難しいことがたくさんあると思いますし、行政や事業者だけではどうしても足りないところがいっぱいあると思うので、地域において除雪で困っている人たちをみんなで助け合うとか、余っている人のパワーで何かできないものかなと思っています。例えば、消防団がありますよね。その代わりといいますか、除雪団みたいなものなど、完全なボランティアではなくても、除雪の仕組みとして、みんなが助け合って安心して暮らせる仕組みを確立していけたらいいのかなと感じています。	

No.	委員	意見	対応
42	高野部会長	<p>除排雪も重要ですが、大雪時における対応ということで、つるつる路面での転倒でけがをされる方は多数に及びますし、除雪や屋根の雪降ろしで亡くなる方も後を絶ちません。これへの根本的な施策というのはなかなかないので、そういう記述も少し入れていただいて、ゆきとの暮らしについて、そういう面の解消も考えていただきたい。</p>	<p>広報・啓発については、大雪時における対応として、「市民・企業との協働の取組」を追記します。また、戦略編の生活・暮らし分野の施策として、「雪対策における市民などとの協働の推進に向けて、関係機関と連携して、多様なツールを活用した広報や啓発を行います。」を位置づけます。</p>
43	中田委員	<p>除雪に関して、昨今は、GPSが非常に発達したり、あるいは、カメラが搭載になったりしたことで非常に効率的になっているかと思うのですが、やはり人の手によるところが最終的には多くて、そこはあまり変わっていないところが多いのではないかなと感じております。</p> <p>スマートシティということで、データが非常に重宝されている。特に気象データは、今後、総務省との関係で、1時間ごとにピンポイントで雪の降り方だとかが全て分かるようになってくるということもある。また、GPS機能も非常に充実をしていきますし、AIの研究も進んでくるということがありますので、省力化、効率化にも通ずるものがありますけれども、除雪に関してもITやAIを導入し、それをいかに活用していくかということにご配慮をいただければと思う。</p>	<p>除排雪作業の省力化・効率化等による除排雪体制の維持など、持続可能な雪対策に向けた検討について記載します。また、戦略編の生活・暮らし分野の施策として、「冬季の道路環境の維持・確保に向け、ICT等を活用した作業の効率化・省力化や担い手の確保に向けた取組を進めるほか、バス路線排雪や歩道の凍結路面对策の強化を継続するとともに、雪堆積場の更なる確保を検討するなど大雪時の対策を強化します。」を位置づけます。</p>
44	山本（強）委員	<p>除雪で苦労しているのに、なぜ除雪に関する技術が札幌で開発されていないのかということを考えるべきだと思う。</p>	